消費者に喜ばれる牧場を目指した取り組みと家畜保健衛生所の役割

丹後家畜保健衛生所

○西田　寿代、岡田　幸大、岩本　尚史

【はじめに】当所では、ジャージー種を繋養し自家製乳製品の加工・販売や、観光牧場を整備し酪農教育ファーム認証を取得するなど、独自の経営を行う管内1酪農家に対し、多様な面から継続的に指導してきた。【指導内容】関係機関・団体と連携しながら、①HACCP方式を応用した衛生管理、②見学者の動線を考慮し、飼養衛生管理基準の遵守と酪農教育ファーム活動の両立、③府の出前講座を活用した生産者・消費者交流支援、④カウコンフォートに配慮した牛舎改修、⑤牛群検定成績を活用した飼養管理、⑥定期繁殖巡回や家畜診療、⑦汚水処理や堆肥化施設の整備支援を行った。【結果】乳房の健康状態を反映する牛群の平均体細胞数及びリニアスコアは平成20年200千個/ml、3.2から平成24年132千個/ml、2.5に改善し乳質が向上した。経産牛1頭あたりの年間乳量は平成13年から平成24年にかけて倍増し、飼養管理の向上もあり平成19年5000kgから平成24年6900kgに増加した。平成16年から平成24年の平均空胎日数は210日から166日に短縮した。年間5万人の来客があり、地域の観光拠点としても注目を集めている。【まとめ】生産衛生や飼養管理、牛群検定、診療、環境保全、消費者交流等、食の安心・安全に関わる広範な分野について指導・支援を行った結果、乳質や飼養環境の改善が見られた。今後、農場HACCP認証も視野に指導・支援を継続する。